ネッタイシマカに要注意！＝半数の市で病気蔓延の危険

ネッタイシマカ（Divulgação/Fiocruz）

　保健省が１２日、デング熱やジカ熱、チクングニア熱の流行や蔓延に警戒すべき市が４７・５％に上るとの調査結果を発表したと同日付現地紙サイトが報じた。

　これらの病気は皆、ネッタイシマカ（Aedes aegypti）が媒介する。全国５３５８市（９６・２％）でボウフラの発生状況などを調べた結果、ネッタイシマカが媒介する病気が皆無または稀な市は３４５、病気発生が見られる市（ＬＩＲＡａ）は５０１３だった。

　ＬＩＲＡａは更に、流行の可能性が低い市と、警戒が必要な市、流行発生の危険度が高い市の三つに分類される。

　特に気がかりなのは、域内感染が発生する危険度を示す指数が４以上の５０４市で、４州都（トカンチンス州パウマス、ロライマ州ボア・ヴィスタ、マット・グロッソ州クイアバ、アクレ州リオ・ブランコ）もこの範疇に含まれる。

　また、警戒が必要な市には、アマゾナス州マナウス、ミナス州ベロ・オリゾンテ、ペルナンブコ州レシフェ、リオ州リオ市、連邦直轄区ブラジリア、マラニョン州サンルイス、パラー州ベレン、エスピリトサント州ヴィトリア、バイア州サルバドール、ゴイアス州ゴイアニア、マット・グロッソ・ド・スル州カンポ・グランデ、ロンドニア州ポルト・ヴェーリョが含まれている。

　３日までに感染が確認されたデング熱患者は２４万１６６４人で、発生率は１１５・９人／１０万人だ。患者数は昨年同期の２３万２３７２人より若干増えたが、死者数は１７６人が１４２人に１９・３％減った。

　チクングニア熱患者は8万４２９４人で、昨年同期の１８万４３４４人より５４％減り、発生率も４０・４人／１０万人となった。死者は３５人で、昨年同期の１９１人比８１・６％減だ。

　ただし、リオ州に関しては、１０月までの患者数は3万7千人（昨年同期は４８２５人）で流行状態と、オズワルド・クルス財団が発表した。州全体では1日平均１２０人が同病に感染。リオ市の患者は昨年同期の５・３倍、リオ大都市圏の患者は9倍だという。

　ジカ熱患者は全国で８０２４人。昨年同期の1万７０２５人比５３％減で、発生率は3・８人／１０万人に下がった。今年の死者は4人だ。